

提携先	(株)オムトレードジャパン	記入日	2008/10/2
登録消費材名	エコシュリンプ		

#### ．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

これまでに努力してきたこと

- ・ 多様な地域、民族、文化背景のあるエコシュリンプの3産地で、エコシュリンプ基準を広め、原料を安定的に調達すること。
- ・ 背景の異なる3産地に合わせた原料調達時のトレーサビリティの確立。
- ・ エコシュリンプという食べ物を介して作る人、食べる人が支えあい、交流をすること。
- ・ 年間を通しての収穫期、端境期を冷凍倉庫をリースし、現地での在庫を確保することで供給に影響させないこと。
- ・ 製造元のA T I N A社と養殖池主との関係の深化。

生産条件の限界

- ・ 稚えびの調達はそれぞれの池主に任せているため、孵化場での稚えびの孵化、成育状況の把握に限界がある。
- ・ えびの病気の原因になるウイルスの増加による収穫量の減少。池干し以外でのウイルスの対処法の模索が必要。

#### ．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

成果

- ・ 工場近辺で冷凍倉庫をリースし、インドネシア在庫の備蓄システムを構築した。
- ・ 地域環境に貢献する活動としてせっけんの普及と河川の清掃大会を行い、環境問題の警鐘と地域環境の保全に地域の住民も含めて取り組むことができた。

課題

- ・ 加工原料用えびの調達は品質、コスト、地域への社会的貢献も含めて開発途上であり、引き続き課題になっている。

#### ．上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

- ・ 作る人から食べる人(養殖池主、A T I N A社、(株)A T J、生活クラブ)の関係をより深化させる。
- ・ より安定的な原料の調達のため各産地での原料調達体制とモニタリングを強化し、自然災害時や環境の変化があっても供給に支障がない体制を整える。
- ・ 工場の加工工程を見直し、稼働効率を一層上げる努力をする。